



## 表紙のART

WEB



「立石寺の石造文化財の調査」  
歴史遺産学科の学生たち

9月上旬の一週間、歴史遺産学科の志木志伸講師率いる約25名の学生たちが、山寺立石寺に入り、境内に残存する石造文化財の調査を行いました。文化財保存修復研究センターのオープン・リサーチ・センター整備事業として実施されているもので、現地調査は今年で2年目。この日は台風一過で晴天の休日。石塔にライトをあてて銘文を解読する学生たちの姿に観光客たちも興味津々。これほど名高い霊場でありながらほとんど知られていない立石寺信仰の解明に一石を投じています。

## 「g\*g」とは?

今年度リニューアルした芸工大広報誌のタイトルは「g\*g」。最初の「g」はズバリ芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持った人々のことを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインかっこいい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民なのです。そんな芸術市民のみなさんと芸工大が、「+」より強い「\*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g\*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。

## 東北芸術工科大学

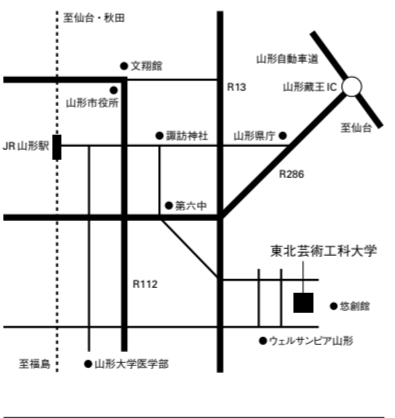
◎芸術学部  
美術史・文化財保存修復学科  
歴史遺産学科  
美術科【日本画／洋画（洋画・版画）／彫刻／工芸（陶芸・漆芸・金工・テキスタイル）】

◎デザイン工学部  
プロダクトデザイン学科  
建築・環境デザイン学科  
情報デザイン学科【グラフィックデザイン／映像】  
メディア・コンテンツデザイン学科

◎大学院芸術工学研究科  
博士後期課程 芸術工学専攻  
修士課程【芸術文化専攻／デザイン工学専攻／デザイン工学専攻 仙台スクール】

◎研究機関  
総合研究センター／東北文化研究センター／文化財保存修復研究センター／こども芸術教育研究センター／デザイン哲学研究所／東アジア芸術文化研究所／社会芸術総合研究所

## ACCESS



## 東北芸術工科大学広報誌 g\*g

2007年10月10日発行  
発行：学校法人東北芸術工科大学  
〒990-9530 山形市上根田3-4-5  
東北芸術工科大学広報担当  
TEL: 023-627-2000 FAX: 023-627-2185  
WEB: www.tuad.ac.jp/  
E-mail: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

Design: Creative Room J1  
Printing: Tamiya Printing co.,ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2007



## TUAD IS HERE

日常の中の芸工大。

WEB

新庄祭り

250年以上の歴史を誇る新庄祭りの花形は豪華絢爛な山車。町内ごとに歌舞伎や物語のワンシーンを繰り出して作り上げられる。そして、祭りが終わると同時に取り壊してしまうという凄さがまた人々を引きつける。そんな新庄祭りの運営や山車の製作に携わっているのが、芸工大OBの伊藤さん。「新庄祭りは原風景」と言い切るほど、ふるさとの風物詩を愛して止まない彼の中には、表現者としての情熱がみなぎっている。

伊藤 亮 Ito Mitsuru  
山形県出身、デザイン工学部情報デザイン学科4期生30歳。新庄節工芸講座に経営指導員として勤務。芸工大で得た知識や人脈を生かし、地域や産業の発展を目的に講習会・イベント等の企画を担当している。

### TUAD × 寒河江市

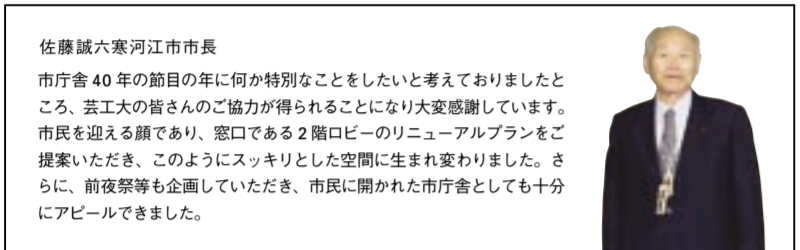
寒河江市庁舎をもっと明るく快適に、家具・空間デザインを提案、実践。



このプロジェクトは、寒河江市から庁舎内の市民ホールのリノベーション計画を依頼されてスタートしました。学生約15名でリノベーション案を出し合い、優秀案をもとに市民ホールの家具・空間デザインを行いました。黒川紀章氏による設計、岡本太郎氏の彫刻をシンボルとする世紀の市役所。その再生に関われるということで、テンションもアップ。何度も市役所に足を運び、市民の声を吸収するためにアンケート調査も実施しました。その結果を受けて、市民が集いやすく、明るく心地よい空間の再「生誕」を目指したのです。新作家具は、

筆記台、ベンチとテレビ台で、山形県内の家具メーカーの指導や協力を得ながら製作にあたり、年内に正式設置の予定です。寒河江祭りに合わせて先行開催したオープニングイベントにはたくさんの市民の方にもご来場いただき感謝です。公共の場ということで規制や要求も多く大変でしたが、その分成長できたような気がします。(プロダクトデザイン学科3年 上松愛奈)

● DATA / 寒河江市庁舎×西澤高男研究室「空間実験プロジェクト」新作家具の設計・製作を柱に魅力的な市庁舎のリノベーションに着手。9月14・15日には、前夜祭とオープニングセレモニーが催された。



佐藤 誠六寒河江市市長  
市庁舎40年の節目の年に何か特別なことをしたいと考えておりましたところ、芸工大の皆さんのご協力が得られることになり大変感謝しています。市民を迎える顔であり、窓口である2階ロビーのリニューアルプランをご提案いただき、このようにスッキリとした空間に生まれ変わりました。さらに、前夜祭等も企画していただき、市民に開かれた市庁舎としても十分にアピールできました。



吹抜けのロビーには、岡本太郎氏の彫刻「生誕」。前夜祭やオープニングセレモニーにはたくさんの市民が集い、より魅力的な空間に生まれ変わった市庁舎でのひとときを楽しんだ。



### TUAD × 酪王牛乳

いままでを大切に、そこに新鮮さを加味。貴重なCI、VIのリファイン体験。



10月1日、新生「酪王牛乳」がスタート。その日は私にとって特別な日となりました。そのリスタートに向けて「酪王牛乳」のブランド・イメージ再構築プロジェクトに参加できたからです。酪王牛乳の製造元が農協組織から株式会社化されるのを機に、会社のブランドイメージやロゴタイプなどを見直したいということで平林先生が受託。既に福島県では広く親しまれている牛乳ということで、これまでのイメージを大切にCI、VIのリファイン化にとどめたいとの要望でした。平林先生をコーディネーターに私たち学生6名と、芸工大のOBであるデザイナーの長岡喜

久さんとの共同作業。工場見学や打ち合わせのために郡山市へも出向き、学内でも検討を重ねてデザインを提案しました。酪王牛乳の方々と仲良くなり、厳しいながらも楽しい体験となりました。店頭に新しいパッケージが並び、自分たちの取り組みが世に出る喜びを実感しています。(メディア・コンテンツデザイン学科4年 千葉さやか)

● DATA / 酪王牛乳×平林千春研究室。CIおよびVIの再構築を受託。昨年11月にプロジェクト開始。4月に最終プレゼン、OB長岡氏の協力により完成形へ。今月、新生「酪王牛乳」スタートの日を迎えた。



左：新生「酪王牛乳」のパッケージと、学生たちがプレゼンテーションを行った企画書。  
上：小学校以来の牛乳工場見学会に少しはしゃぎながらも、真剣に視察をする学生たち。



上：芸工大の裏山で行われたバードウォッチング&撮影会の様子。  
右：バルサで製作された阿部さんのホールディングモデル。



### TUAD × キヤノン

キヤノンというトップ企業との共創、カメラデザインを実践の中で学ぶ。

カメラという道具の握りやすさを追究しデザインする、それが今回のキヤノンさんの産学共創プロジェクト。私は、ものづくりの現場を間近に感じたいという理由でこのプロジェクトに参加しました。最前線で活躍するキヤノンのデザイナーやカメラマンの方々から、デザインのプロセスやアイデアの出し方などの講義を受ける機会にも恵まれ、学生の域を超えた体験をさせてもらっています。そして、指導の上原先生は現場主義。実際にカメラを手にして撮影してみる事が大切と、西蔵王高原や悠創の丘に出かけて野鳥撮影も体験。なぜ、野鳥かということ、自然豊かな山形とカメラの接

点として「バードウォッチング」とひらめいたのだとか。実際に撮影動作を体感した上でアイデアを出し、柔らかい木材で実物大のホールディングモデルを製作。中間発表を経て、今はキヤノンの方を招いて行う最終発表に向けてデザイナーに働きをかけているところです。(プロダクトデザイン学科3年 阿部拓哉)

WEB

● DATA / キヤノン×上原勲研究室の産学共創プロジェクト。昨年、ホンダとの産学共創で学生たちが高い評価を得たことで、今年は光学界のトップブランド「キヤノン」との共創が実現。10月末に最終プレゼン予定。

HEADLINE

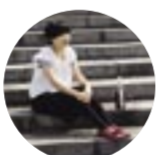
芸工大 \* クライアント

## TUAD 社会でアクション。

今、芸工大の周辺では、産学官の連携やORC(オープン・リサーチ・センター整備事業)など、大学とクライアントとの出会いで、新しい「動き」が起こっています。地域企業や自治体の豊富な技術力と経験などが、大学ならではの知的資源や学生たちの若いパワーと反応し合い、見事なコラボレーションを生んでいます。最近の成果や経過をいくつか紹介してみよう。

### TUAD × 金龍

自分の作品が世に出る貴重な体験、企業の情熱を焼酎ラベルにデザイン。



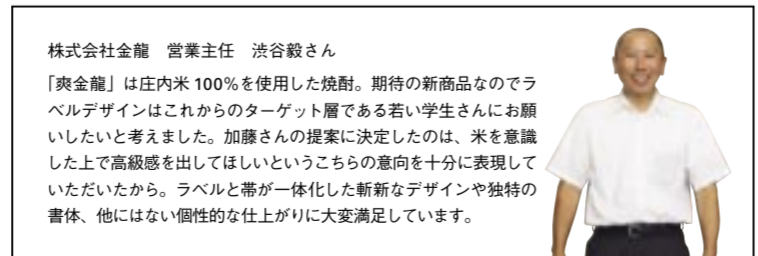
私がパッケージデザインやロゴづくりの面白さに目覚めたちょうどその頃、金龍さんから新商品「爽金龍」のラベルデザイン募集の話があり、すぐにコンペへの参加を決めました。中山先生からは、「金龍さんの商品にかける情熱を受け止め、自分があったらいいなと思うラベルをデザインするように」とのアドバイスを受け、他にはないラベルにしたいと街の酒屋さんにも随分足を運びました。ロゴはすぐにひらめいたものの、ラベルのカタチや素材のセレクトでは試行錯誤の連続。ラベルの既存概念から離れて、細長い帯状にすることで和紙を使いながらも洋の雰囲気を出すことができました。採用が決まったときは本当にうれしかったですね。その後、「爽金龍」は、特に香りのよい焼酎ということで「かおり」の文字が追

加され、思いがけず自分の名入りラベルになって感激もひとしお。普段、教室では学ぶことのできない経験に心から感謝です。(情報デザイン学科3年 加藤圭織)

● DATA / 金龍×中山ダイスケ研究室のデザインプロジェクト。株式会社金龍より新商品「爽金龍」のボトルラベルのデザインの依頼を受け、約20点の提案の中から加藤さんのデザインが採用された。



中山先生が見守る中、金龍の社員の方々にお願いした行きわたったプレゼンテーション風景。真剣な意見や要望が飛び交った。



株式会社金龍 営業主任 渋谷毅さん  
「爽金龍」は庄内米100%を使用した焼酎。期待の新商品なのでラベルデザインはこれからのターゲット層である若い学生さんにお願ひしたいと考えました。加藤さんの提案に決定したのは、米を意識した上で高級感を出してほしいというこちらの意向を十分に表現していただいたから。ラベルと帯が一体化した斬新なデザインや独特の書体、他にはない個性的な仕上げに大変満足しています。

### TUAD × 鶴岡カトリック教会

日本にたった一体、神秘的「黒い聖母」像その修復にあたる文化財保存修復研究センター



本学の文化財保存修復研究センターでは、鶴岡カトリック教会に安置されている日本でたった一体の「黒い聖母」像の修復を行っています。これは、以前から黒い聖母像に惹かれていた私の悲願でもありました。1903(明治36)年に北フランスのデリヴランド修道院から鶴岡の教会に寄贈されたその像を、初めて調査したのは5〜6年前。その時すでに傷みが激しく、すぐにも修復が必要な状態でした。そして今回、信者の募金によってようやく修復が叶うことになったのです。本格的な修復作業に入る前に、私はデリヴランド修道院に向いて製

造技法や材料について十分な来歴調査を実施。100年後、200年後の再修復のことも念頭に入れ、最良の手法で修復しなければならぬからです。学生たちにとっても本物に触れるチャンスは重要です。慎重に折を見て触れさせるようにしています。クリスマスに一度里帰りするものの、修復完了は来年3月の予定です。(美術史・文化財保存修復学科教授 藤原徹)

● DATA / 平成17〜21年度文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業(ORC)「地域文化遺産の循環型保存・活用システムの総合的研究」の一環。7月にはシンポジウムが開かれ関心を集めた。



左：顕微鏡カメラを使用して黒い聖母像の修復に挑む藤原先生。  
上：来歴調査で訪れたデリヴランド修道院での撮影や聞き取り調査の様子。

幅広い分野で芸工大パワーを発揮。ほかにも、こんなプロジェクトに取り組んでいます。



芸工大には製品デザインからグラフィック、建築やインテリア、美術、文化財の修復まで様々な分野の研究者と、それを学ぶ学生がいます。社会との関わり方も幅広く、今回ご紹介した事例のほかにも、連携プロジェクトの分野は多種多様。東海理化との車のインターフェイス提案、アマルメ芸社との銅の照明デザイン、本田技研工業との耕転機や除雪機のデザイン提案、山形市内の蔵の活用提案など毎年広がりを見せています。

総合研究センターを窓口地域企業や自治体と連携。地域への貢献と、学生の教育への還元。

東北芸術工科大学では、大学の知的資源を活かした産学官連携で地域の発展に貢献するための窓口として、総合研究センターを設置しています。当センターは、地域企業・自治体と本学を結び、「大学と一緒に研究・開発を進めたい」「アイデアや情報の提供をしてほしい」「専門家を招いてセミナーを開きたい」など多様なニーズに応えています。連携の形態としては、企業・自治体から委託された課題について共同で研究を行う場合と、大学側が中心

となって研究に取り組む受託研究などです。本学には100名以上の研究者があり、学生たちの若い感性と可能性にも満ちています。それらは企業や地域にとっても大きな魅力であり、新しい発想や展開のきっかけにもなります。さらに学生たちには実践的な課題に取り組む機会ともなり、実社会で活躍できる人材の育成にも確かな成果を上げています。(総合研究センター長/プロダクトデザイン学科准教授 上原勲)

# 秋晴れに恵まれた大学祭、学生と芸術市民が素敵な時間を共有した。

10月6日・7日の2日間、芸工大では大学祭が開催され、小さな子どもからおじいちゃん、おばあちゃん世代まで、たくさんの人々にぎわいました。アートなもの、おいしいモノ、楽しいこと、不思議な世界……。芸工大ならではの盛りだくさん企画に、みんな大満足だったようです。



友達が多くて目立ちたがり屋、そんな私は学祭が大好き。2年生ながら実行委員長を務めさせてもらいました。友達が企画や手配のバックアップしてくれたおかげで大成功。来年につながるいい大学祭になったと思います。  
(大学祭実行委員長 吉田勝信)



大学祭 \* 訪れた人々

東北が原点。中央ではなく、芸工大で学んだことで生まれた世界観。

この春、由緒あるオークション「香港クリスティーズ」で作品が高い評価を得て落札された注目の日本人アーティスト「青山ひろゆき」は、まさに本学の卒業生であり、昨年度で本学で助手を務めていました。現在は、故郷の福島県で高校の美術教師をしながら制作活動に取り組んでいます。芸術を志していた青山さんは、関東の大学への選択肢もあった中、あえて東北芸術工科大学へと進学。3年生になるまでは洋画に没頭しきれなかった青山さんに転機が訪れたのは、木原先生の勧めで対外展への出品をはじめたから。学内とは違った厳しい評価を受けることで、それが次の作品への糧となったといいます。外に飛び出すことで新しい出会いがあり、次のチャンスへもつながりました。香港クリスティーズへの出品のチャンスもそんな出会いのたまもの。東北に生まれ学んだことが強みという青山さん。その独特の世界観に今後も注目です。



青山博幸 Aoyama Hiroyuki  
福島県出身、美術科洋画コース4期生、大学院修士課程修了。美術講師や本学での助手を経て、現在は高校の美術教師。作家としても注目人物。

●木原先生へひとこと  
「天才なんて信じない」という木原先生の一言で吹っ切れて、とてもポジティブに絵向き会えるようになりました。対外展への出品も先生の勧めでした。丁寧な教えとタイミングのよいアドバイスを心から感謝しています。

左：「ビー玉の丘」  
油彩・キャンバス S8  
上：「wig」  
油彩・キャンバス F10  
下：香港クリスティーズでの展示

## 芸工大OB \* 教授

### 描くこと発表すること、その面白さを知る。

美術科洋画コースで木原教授に学んだ青山さん。対外展への出品や個展開催を機に急成長したという。現在の活躍を予感させる片鱗は確かにあった。

素直な学生たちだから教えがいががある。丁寧な個人の句を見極めながら指導。

「自由にやりなさい」それが青山さんに与えた最大のアドバイスだったと語るの、美術科洋画コース教授であり、自らの作家活動にも意欲的な木原正徳先生。人と自然とのつれ合いを抽象的に描き続けています。そんな木原先生は、芸工大には創造を促す質の高い「飢え」があると表現しています。それは、豊かな自然環境や教員と学生の近さといった芸工大らしさが要因のようです。情報や流行が氾らんする都会と違って、学生たちはとても素直に反



木原正徳 Kihara Masanori  
長野県出身、美術科洋画コース教授。二紀展安田火災賞、田村賞、青木繁記念大賞展わだつみ賞など受賞。銀座東和ギャラリーをはじめ個展も多数。

●青山さんへひとこと  
最近の活躍ぶりをうれしく思っています。持ち前のポジティブさを活かしフロントランナーとしてその勢いでどんどん突っ走ってください。それが、大学の後輩たちへの何よりもいい刺激となるからです。



下：ひとかたち（花のあとさき）  
油彩・キャンバス  
1850 × 2375mm  
左：ひとかたち（白雨）  
油彩・キャンバス  
2360 × 1818mm



PICK UP

今年で16回目となった大学祭「芸工大祭」。天候にも恵まれ、実に千客万来の2日間でした。今回のテーマは「料理」。アートやデザインでの「ものづくり」を最も身近でわかりやすい料理にたとえたのです。人々が日々生活の中で当たり前のようにしているように、芸工大生は日々当たり前にかかっています。アートやデザインはとても身近なもの。文字通り、おいしい料理や楽しい企画が盛りだくさんの大学祭となりました。野外の模擬店では、餃子やタイカレー、ナン、タコスなどの多国籍メニューが来場者を引きつけ、水上能舞台では、ゴスペルやブラスバンドの演奏が拍手や歓声を集めていました。正面階段脇の広場には大きな布が敷き詰められ、チビッ子たちを中心に一般の人もいっしょに、自由にお絵かき会。学生会館前では大きな画面にペンキやスプレーでダイナミックに描くライブペインティングが行われ、楽しさをアピール。その他、逆ミズコンなどのノリノリ「エンタメ系」から学生作品を発表する芸美展や洋画・日本画展示会、学生企画展のデザイン性を競う企画コンテスト、8mm映画の上映会など芸工大ならではの「表現系」まで、見事に多彩に魅せてくれました。**WEB**



後輩が出演しているので遊びに来ました。毎年、新しい企画が盛りだくさんで楽しいですね。「他の大学祭とはひと味違う」といっしょに来た友達も楽しんでくれたみたいでよかったです。  
(芸工大OGの横さんと田中さん)



芸工大生のいところから大学祭のことを聞いて、部活帰りに友達と2人で来ました。いちはんのお目当ては男子の女装かな。かわいいアクセサリの販売やいろんな展示があって楽しかったです。  
(女子高生 真里佳さん・瑠紀さん)



上の子どもも芸大に通っているので芸工大のイベントにはよく来ます。大学祭は2回目。今日はグルメと色々な催しを楽しみに来ました。家族で楽しめる雰囲気がうれしいですね。  
(上山在住の三浦さんファミリー)



楽しそうなお祭りがあるって聞いて、おかさとお隣の祥ちゃんといっしょに来た。大学なにかわいいアクセサリーもいっぱい売っていてびっくり。クレープもおいしかったです。  
(お隣同士 祥ちゃんと陽菜ちゃん)



最近、ダンスを通してけっこう交流があるんですよ、山大と芸工大は。芸工大はキャンパスがきれいだし、学祭も学生全体が協力して、盛り上がりを感じてほしいです。  
(山大生の足利さん、鶴田さん、摩庭さん)



芸工大の聴講生だったこともあり、能舞台に和太鼓を聴きに来たり、近所なので来ます。今日は、陶器や漆器の掘り出し物を探しに。若い人がいっぱい活気があっていいですね。  
(ご近所在住の奈良崎さんご夫妻)

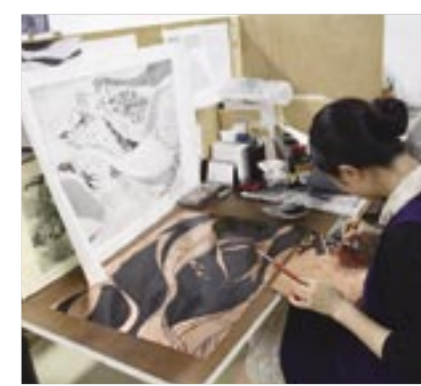


子どもが小さい頃にはよく一緒に絵を見に来たりしてたんですよ。今日は、散歩気分でも立ち寄ってみました。天気よくて見晴らしもよくて最高です。能舞台でのコンサートも素敵でした。  
(ワンちゃんと一緒にの佐藤さんご夫妻)

## 美術科洋画コース [洋画・版画]

自らの手を汚しながら一心に作品と向き合う姿は、この時代とても重要なこと。洋画コースでは油彩や版画はもちろん、古典技法や素材・技法研究などにも取り組み、幅広い造形力と伸びやかな感性を育てていきます。専任教員との日頃のやりとりに加え、非常勤講師による演習も積極的に行われ、表現の次の展開へ向けて、様々な角度から刺激を受ける機会も豊富

です。作品の完成後に行われる講評会やコース主催の展覧会、そして作家による講演会、京都造形芸術大学とのコンクールや交換留学など、各種企画も活発。また、大学を包む豊かな四季の彩りも、制作をする上でとても魅力的な環境となります。洋画コースでは、中・高校の美術教諭一種免許、学芸員の資格が取得可能です。



INTERVIEW

# TUAD NEWS 25

目で見える芸工大「できごと」セクション



**02** 佐藤美術館 第16回奨学生美術展 将来を嘱望される絵描きたちへの熱いエール

博士課程日本画専攻の高橋誠さんと金子富之さんが、第16期佐藤美術館奨学生に選出されました。第16回奨学生美術展として、11月18日(日)まで佐藤美術館にて作品が展示されます。また花澤洋太美術科准教授も招待作家として出品します。11月3日(土)に開催される関連イベントの、座談会「絵描きとしてどう生きていくのか：アーティストVSコレクター」にも花澤洋太准教授と金子富之さんが参加します。



**03** 赤坂大学院長が岡本太郎に関する興味深い著書で栄えある文学賞を受賞

8月16日、赤坂憲雄大学院長・東北文化研究センター所長の著書「岡本太郎の見た日本」(岩波書店/2,300円)が、第17回ドゥマコ文学賞(東急文化村主催)を受賞しました。10月に授賞式が行われます。



**04** 第43回神奈川県美術展に入賞 活発な出展・出品活動に注目

鉄片を機重にも重ね合わせた作品が印象的な、大学院彫刻専攻の菅原隆彦さんが、第43回神奈川県美術展に入賞しました。また、第71回自由美術平面・立体展と、第3回現代彫刻美術館 屋外彫刻選抜6人展に出品します。 **WEB**



**05**

ガッツ溢れるプレーで パラリンピック北京大会への出場決める

プロダクトデザイン学科1年の粟野幸智恵さんがシッティングバレーボール(座って行うバレーボール)の日本女子代表チームのメンバーに選出され、2008年9月に開催されるパラリンピック北京大会に出場することが決定しました。 <http://www.jsva.info/>



**06**

東京・仙台での保護者会 芸工大での学びに大きな期待と安心と

9月22日に東京サテライトキャンパスで、9月23日にKKRホテル仙台で、それぞれ保護者会懇談会を開催しました。東京会場には50名、仙台会場には120名を超える保護者の方にご参加頂き、大学での修学の様子や就職状況、学科での講義の内容などを説明。個別相談の時間や懇談会も設け、大学教員や職員、保護者間での情報交換・交流の良い機会となったのではないのでしょうか。

**07** OBのおいしい活躍、日本PD大賞2007日本パッケージデザイン部門菓子部門賞受賞

プロダクトデザイン学科の卒業生 大井福也さんが、日本PD大賞2007の日本パッケージデザイン部門菓子部門賞を受賞しました。 <http://www.jpda.or.jp/activities/award/pd2007awards/pd2007.html>

**08**

棟方記念版画大賞展に入選 院生と卒業生の活躍が後輩たちの励みに

大学院こども芸術教育研究領域1年の林こずえさんと2006年度洋画コース版画専攻卒業の佐藤未来さんが棟方記念版画大賞展に入選しました。作品は、7月14日-9月2日の間、富山県の福光美術館で展示されました。



**09** 十和田美術館開館イベント 共同で描いた昆虫バス、快足!

十和田美術館開館のイベントとして、ムービングオブジェクト(移動する作品)を1年間の期間限定で制作するワークショップが開催され、在学生の池島志さん、柴田庸平さん、菊池涉さんが参加しました。椿昇氏のコーディネートのもと、北里大学の学生と共同で、十和田観光電鉄の大型バスの車体に昆虫をテーマにしたグラフィックを仕上げました。バスは9月20日に公開され、今後1年間、十和田市を中心に走ります。



**10** 遠方からも・高校1・2年生も... 交流深め、にぎわったオープンキャンパス3

オープンキャンパス3「進学相談会」を9月29日に開催しました。個別の入試相談や合格者参考作品の展示のほか、各学科・学系・コースの施設・設備を公開するとともに、社会で活躍している本学卒業生との交流などの企画を用意。当日は福島や盛岡、水戸などから無料シャトルバスも運行しました。来年の芸工大生を目指す多くの受験生のほか、高校1・2年生にも参加頂きました。 <http://gs.tuad.ac.jp/oc2007/>

**01** 活躍の場を東京へ、世界へ 大学院生 Designers Block London 07 に参加

9月20日-23日、昨年から活動を活発に行っている大学院生デザイン領域の在学生・修了生を中心としたデザインユニット「Link」が、今年もイギリス・ロンドンで開催されるデザインメッセ「Designers Block London 07」に参加しました。2007年度メンバー：Kazuyuki KAWASE / So SAKAI / Naho MATSUNO / Yuki MACHI / Ryusuke YAMADA また10月31日(水)-11月4日(日)、Tokyo Designers Week 07にもT&G ARTS TOKYOの協力で出展します。 <http://www.t-g-arts.com/modules/contents/> **WEB**



**11** TUAD meets Apple Store Sendai Ichibancho 芸工大パワーを見つけた仙台の夜

9月24日、アップルストア仙台一番町でカレッジナイト枠での作品上映&トークセッションイベント「Media Arts World」を開催。映像コースの岩井天志講師と、在学生の穴戸幸次郎さんと藤村悦洋さんの珠玉の短編映像作品をオムニバスで上映しながら、作者を交えたりレートークを展開し、映像作品を創る楽しさに迫りました。



**12** 昔ながらの湯治場にちよっと新しい風、肘折温泉の上の湯が完成

前号でご紹介した肘折温泉の公共浴場「上の湯」のリノベーション計画ですが、無事に工事が終了しました。これまでのコンクリートの壁面を生かしつつ、白と黒を基調にしたデザインで、室内が明るくなるように採光も考慮。より気持ち良く温泉を楽しめるはず。ぜひ一度、足をお運び下さい。



**13** 2007 太恵祭りと太鼓競演 みんなの心に強く響いて拍手喝采

東北芸術工科大学の教職員で構成される「太恵」と、学生で構成される「太恵学生組」が一同に会し、こども芸術大学5歳児クラスのだいち組と共に太鼓演奏を開催しました。大人からこどもまで、総勢40名を超える出演者が力を合わせて心を込めて演奏。ご来場頂いた多くのお客様の心にも、強く響いたのではないのでしょうか。

**14** 東北芸術工科大学東京事務所移転 代官山ヒルサイドテラスへ

「社会芸術総合研究所」の開設に伴い、東北芸術工科大学東京事務所も移転することになりました。事務所機能は代官山ヒルサイドテラスの新東京事務所へ移りますが、校友会などの催しは、従来通り恩留町の東京サテライトキャンパスで開催するものもあります。開催場所には十分ご注意ください。移転先は以下の通りです。社会芸術総合研究所/東北芸術工科大学東京事務所 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町29-18 ヒルサイドテラス B-8 TEL:03-5459-4840 FAX:03-5459-4849 ※g\*g vol.1他でご案内したアークヒルズへの移転が変更になりましたので、訂正してお詫言致します。

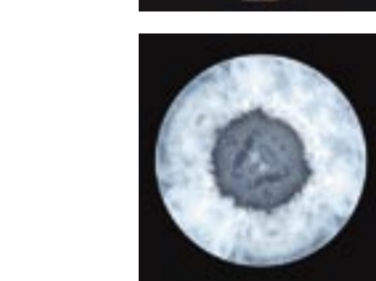


写真：HILLSIDE TERRACE 建築不動産株式会社



**16** 地域との連携、成果が活躍が評価され 蔵プロジェクト「奨励賞」を受賞

建築・環境デザイン学科の学生を中心に活動する蔵プロジェクトが、7月15日、16日に開かれた全国都市再生まちづくり会議で、「全国都市再生まちづくり会議2007奨励賞」を受賞。学生副代表の亀岡真彦さん、修士2年の阿部聡史さん、学部2年の菅野智恵美さんの3人で参加し、「地域活性化」と「学生都市再生まちづくり会議」で、活動計画や報告をプレゼンテーションしました。



**19** 小林和彦助手の作品が CGの学会やNHK-BS2でも紹介される

小林和彦情報デザイン学科助手の作品「scan Gate」が、アメリカ・サンディエゴで開催されたCGの学会「SIGGRAPH」の展示部門(8月5日-8月9日)と、The Art of Digital Show 2007(10月6日-11月11日)に選出され、展示されました。また、9月7日放送分のデジタルスタジオM(NHK-BS2)の中の前内進彦セレクションで、作品「Seleine attraction」が紹介されました。 **WEB**



**20** 現役・OBが多数入選、日本美術展、山形展で会いましょう

第92回日本美術展展で、以下の複数の在学生、卒業生が受賞・入選しました。山形展は山形美術館で10月26日(金)-11月11日(日)に開催されます。入選：山口裕子(日本画コース2年・初入選)、高橋誠(博士3年)、鬼塚堅太(2004年度大学院修了)、桑原武史(2003年度大学院修了)、須田健文(2001年度大学院修了・日本美術院院友推挙)、中井香奈子(2001年度大学院修了)、阿良山早苗(1999年度大学院修了)、長島毅(1989年度大学院修了)、野田歩(1995年度学部卒業) **WEB**

**15** 番場准教授と谷講師が 日本美術院展大観賞、奨励賞をダブル受賞

番場三雄美術科准教授の作品「風の道」が、第92回日本美術院展で日本美術院大観賞を受賞しました。受賞作品は、10月26日(金)-11月11日(日)の院展山形展にも出展します。さらに、谷善徳美術科講師も第92回日本美術院展で奨励賞を受賞しました。 **WEB**



**21** 多数の受賞・入選が誇らしい 第18回臥龍桜日本画大賞展

第18回臥龍桜日本画大賞展に、以下の複数の在学生、卒業生が受賞・入選しました。高山展は終了しましたが、岐阜県は岐阜美術館にて10月16日(火)-10月21日(日)に開催されます。奨励賞：山口裕子(日本画コース2年)、竹下修司(日本画コース4年) 入選：中島敦子(日本画コース2年)、森島和(日本画コース4年)、廣瀬直子(大学院1年)、田口穂聖砂(大学院1年)、一ノ瀬絹子(大学院1年)、白崎彩子(2006年度大学院修了)、為社顕(2006年度学部卒業)



**22** 山形銀行と産学連携 地元山形で芸工大らしいアクションを

9月13日、東北芸術工科大学と山形銀行の産学連携協定の調印式を本学こども芸術教育研究センターこども劇場において行いました。両者が持つ地域における情報やノウハウを結びつけ、連携を強化し、互いの発展と地域の活性化に貢献する目的です。既に山形銀行が橋渡しとなり、本学生・教員がぐだもの缶詰や地ビールのラベルデザインなどを行ってきた実績があります。産学連携の強化により、学生が実際に社会へ関わる機会がますます増えることでしょう。



**23** 懐かしい友と恩師とすてきな時間、思い出の母校で開催された校友会

9月29日、芸工大卒業生の一層の親睦と発展を目的に、校友会を開催しました。注目の企画、卒業生補講と題したトークイベントでは、元学長の會田雄亮名誉教授と、長澤忠徳氏をお招きし、アートとデザインについての講義を開催。参加された方は学生時代を想い返したのではないのでしょうか。



**24** プロデューサートークに盛り上がった ゲーム・Webデザインコース特別講演会

9月16日、メディア・コンテンツデザイン学科ゲーム・Webデザインコースが、「ゲームの拡張性とWebの無限性への未来の形。Web3.0へ」を副題に特別講演会を開催。講師に中村勲教授(ゲームプロデューサー)と永松範之氏(メディア・ビジネスプロデューサー)を迎え、ゲーム、Webの未来型を来場者と共考えました。



**25** 大学院仙台スクールの学生プレゼンツ 上映会+トークイベント 「レトロスペクティブ」

9月20日、せんだい映画週間特別企画として、現代の若者をテーマに国際的な評価を得ている奥原浩志監督と、映画プロデューサーの越川道夫氏を招いた上映会+トークイベント「レトロスペクティブ」を開催しました。このイベントは大学院仙台スクールの学生が企画・運営し、多くの方に来場頂きました。

TOPICS

TOPICS

## OPEN GALLERY

EVENT SCHEDULE **WEB**

## 10/11-21

山形と長野、盆地つながりで作家集う

共に「盆地」な山形と長野。それぞれの場所で、互いに工芸に携わる東北芸術工科大学工芸コースの卒業生14名と、あづみ野ガラス工房の作家6名による合同展です。

『山ぽん長ぽん工芸展』

日時:10月11日(木)～21日(日)9:00～17:00(月曜休館)

会場:安曇野市豊科近代美術館2階展示室(長野県安曇野市豊科)

観覧料:一般500円、大高生300円、小中生150円(常設展込み)

※当企画のDM、チラシの持参にて当企画のみ無料で観覧可



## 10/12-25

光に導かれ、33通りの感動に出会う

半年の制作期間を通し、各々魅力的な作品が完成しました。33人それぞれの光が集まり1つの大きな光の展示になりました。ぜひ Lighting Object をお楽しみ下さい。

『Lighting Object 2007 in Autumn』

日時:10月12日(金)～25日(木) 9:00～21:00(会期中無休)

会場:本館ラウンジ+エントランスギャラリー

## 10/12-11/9

美術館所蔵コレクションを鑑賞できる幸運

改修のために休館している栃木県立美術館のコレクション約8,000点から、本学文化財保存修復研究センターが一時保管・メンテナンスを依頼された彫刻作品の一部を公開・展示いたします。

『栃木県立美術館所蔵彫刻コレクション展』

日時:10月12日(金)～11月9日(金) 10:00～18:00(日曜休館/土曜日は17:00迄)

会場:本学図書館2階スタジオ144

作家:アンディー・ゴールズワージー、デヴィット・ナッシュ、ポール・ニアグ、戸谷成雄、深井隆



## 10/12-11/9

珠玉に出会う、芸工大で出会える

作品制作における「自己との対話」のあり方をテーマに、舟越桂の最初期の傑作から未発表の最新作まで、作家自身が所蔵する珠玉の木彫作品を中心にご紹介。裏面に特集記事を掲載。

『舟越桂 | 自分の顔に語る 他人の顔に聴く』

日時:10月12日(金)～11月9日(金) 10:00～18:00

会場:本館7階ギャラリー

入場料:無料



## 10/19-1/31

アート&amp;デザインを志すキミへ

『2008年度入試日程』

〈自己推薦入学試験〉

出願:10月19日(金)～11月2日(金)

試験:11月11日(日)

〈AO型入学試験(B日程)〉

出願:11月14日(水)～26日(月)

試験一次:12月1日(土)

試験二次:12月15日(土)

〈一般入学試験(前期)〉

出願:1月7日(月)～21日(月)

試験:1月28日(月)～29日(火)

〈センター試験利用試験(1教科型)〉

出願:1月7日(月)～21日(月)

試験:1月28日(月)～29日(火)

〈センター試験利用試験(2教科型)〉

出願:1月15日(火)～31日(木)

試験:個別試験なし

## 10/20

貴重な文化遺産を災害から守ろう

多くの専門家・経験者の方をお招きし、文化遺産を災害から守る体制作りのための情報や知識を共有します。

『公開シンポジウム「文化遺産防災フォーラム in 大阪2007」』

日時:10月20日(土) 13:30～17:00

会場:大阪国際会議場「グランキューブ大阪」1101、1102会議室

主催:本学文化財保存修復研究センター/京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター  
参加:松田泰典(文化財保存修復研究センター長)他

## 10/21

いよいよ決勝大会。12チームが熱いプレゼン

高校生が社会や身のまわりの生活の中から問題点を見つけ出し、その解決策を提案。応募数396チームの中から一次審査によって選抜された12チームが、持ち時間7分間でプレゼンテーションします。

『第14回全国高等学校デザイン選手権大会/決勝大会』

日時:10月21日(日) 12:30～

会場:本館3階201講義室

入場料:無料



## 10/27

ローマ・ヴァチカンへと誘う

ローマ・ヴァチカン美術館の「ラオコーン」について、関連する著書、訳書を出された招聘講師による最新の研究成果を盛り込んだ講演会。

『公開講座東西美術紀行「ラオコーンの名声と謎」』

講演:芳賀京子(東北大学准教授)

日時:10月27日(土) 14:00～

会場:本館2階207講義室

受講料:一般1,200円、定員50名。本学学生は無料。満室の場合は立ち見になります。



## 10/31-11/11

風土の影響力とは、姉妹校と徹底比較

「風土」をテーマに姉妹校の京都造形芸術大学と共同開催する作品展。デッサンとドローイングの持つ今日的な意味と概念の問題を考えます。

『第8回 デッサン・ドローイングコンクール展』

日時:10月31日(水)～11月11日(日) 9:00～17:00

会場:悠創館

入場料:無料



## 11/2-1/12

そうそうたる文人が仙台に集う

『東北ルネサンスプロジェクト in 仙台』

〈赤坂憲雄対論「後藤新平を語る」〉

日時:11月2日(金) 19:00～

講師:星亮一(作家)

会場:エルパーク仙台セミナーホール

〈小説家・ライター講座「新人に求めるもの」〉

日時:11月10日(土) 17:00～

講師:福田伸寿(小学館「きらら」編集長)

会場:仙台市文学館

〈編集者講座「アートブックの現場から」〉

日時:11月17日(土) 17:00～

講師:竹井正和(フォイル代表取締役社長)

会場:仙台市文学館

〈赤坂憲雄対論「内藤湖南論(仮題)」〉

日時:12月7日(金) 19:00～

講師:粕谷一希(評論家)

会場:エルパーク仙台セミナーホール

〈小説家・ライター講座「詩と小説の文体」〉

日時:12月8日(土) 19:00～

講師:小池昌代(川端賞作家・詩人)

会場:仙台市文学館

〈編集者講座「フォトジャーナリストの眼」〉

日時:12月22日(土) 14:00～

講師:長倉洋海(写真家・土門賞受賞)

会場:仙台市文学館

〈編集者講座「ビジネス書を読み解く」〉

日時:1月9日(水) 17:00～

講師:石井伸介(プレジデント社書籍編集部長)

会場:仙台市文学館

〈赤坂憲雄対論「布施辰治論(仮題)」〉

日時:1月11日(金) 19:00～

講師:森正(名古屋市立大名誉教授)

会場:エルパーク仙台セミナーホール

〈小説家・ライター講座「小説の視点をめぐって」〉

日時:1月12日(土) 17:00～

講師:熊谷達也(直木賞作家)

会場:仙台市文学館

申込先:すべて東北文化研究センター

## 11/17-12/2

芸工大の層の厚さ、才能の多彩さ

本学の助手、副手を中心とした有志による、芸術やデザイン分野の作品・研究発表。

『助手・副手展』

日時:11月17日(土)～12月2日(日) 9:00～19:00

会場:本学図書館2階

## 11/27-12/9

教員らによる工芸の楽しさ展です

美術科工芸コースの教員による合同展です。工芸の楽しさを、茶箱の提案として伝えます。

『素材の宇宙 茶のしつらえ』

〈東京展〉

日時:11月27日(火)～12月9日(日) 11:00～19:00

(月曜定休)

会場:ギャラリールー・ペイン(港区西麻布)

〈山形展〉

日時:1月15日(火)～25日(金) 9:00～18:00(日曜休館)

会場:本館7階ギャラリー



## 12/9-4/6

初心者も憧れの志野焼を自分の手で

桃山茶陶で有名な志野焼に挑戦します。今回は専門特別講座も予定。

『陶芸講座「志野を焼く」(全15回)』

講師:佐藤大寿(陶芸家)

特別講師:和太守卑良(工芸コース教授)、佐々木理一(同講師)、他大学院生等

日時:12月9日～4月6日の日曜日 13:00～16:00

(12月30日、1月6日、3月23日休み)

対象:一般:初心者から経験者まで

定員:12名

申込先:エクステンション担当

申込締切:11月15日(木)まで

受講料:48,000円(粘土代は個々に別途徴収予定)

## 12/17-26

あの専門ギャラリーがやって来る

若手建築家 千葉学氏とアトリエ・ワンの展示会。『ギャラリー間の巡回展』

日時:12月17日(月)～26日(水) 10:00～18:00

会場:本館7階ギャラリー

「あなたの作品、寸評室」出品者募集!

あなたの作品も、専門の先生の寸評を受けませんか。絵画、陶芸、工芸、CG作品など何でも結構です。芸工大が誇る層の厚い先生達がやさしく的確に評価し、今後につながるアドバイスをいたします。ご希望の方は、1.住所、2.氏名、3.生年月日、4.職業、5.平日の日中に連絡が取れる連絡先と併せて、6.作品のジャンル、7.大きさや重さ、8.概要を以下の窓口までご連絡ください。

FAX:023-627-2185

E-mail:hello-gg@aga.tuad.ac.jp

※申し込みを複数頂戴した場合には、大変勝手ながらこちらにて選考をさせていただきます。結果は、取材希望の連絡をもって発表にかえさせていただきます。ご連絡頂いた情報は、本目的以外には使用致しません。

## OPEN GALLERY

## WELCOME TO TUAD

誰もが知っている世界的彫刻家・舟越桂さんの作品が山形初上陸です。

いま、日本でもっとも人気のあるアーティストのひとり、彫刻家の舟越桂さんが、なんと芸工大のギャラリーで個展を開催！今年の春頃からキャンパスでちらほら半信半疑で囁かれていた噂が、夏休み明けに貼り出されたポスターによって現実であったことを知り、学生たちは心底おどろいている様子。

2007年10月12日現在、美術館大学構想室(www.tuad.ac.jp/museum)では、舟越さんが大切に保管してきた若き日の作品群と、この夏、アトリエで彫りあがったばかりの最新作3作品に、栃木県立美術館が所蔵する2作品(\*1)を加えた計11点を紹介する企画展「舟越桂 | 自分の顔に語る 他人の顔に聴く」を開催中です。

やわらかな鑿跡のテクスチャーと、大理石を丸く削り出した眼球の内省的なまなざしにより、見る者に仏像のような静謐な存在感と、現代人のメランコリックな心情を感じさせる舟越さんの彫刻は、日本のみならず世界の美術ファンにひろく知られる存在。また、アートシーンだけではなく、大江健三郎の連載小説「二百年の子供」の挿画や、天童荒太のベストセラー『永遠の仔』のカヴァー掲載、ドキュメンタリー映画『舟

越桂』(藤井謙二郎監督)への出演など、ジャンルを越えてこの時代の表現活動に影響を与え続けています。東北では2003年に東京都現代美術館を皮切りに全国を巡回した大規模な個展『舟越桂 Works:1980-2003』が舟越さんの郷里の盛岡で開催され大きな反響を呼びました。

もちろん絵画や彫刻を学ぶ美大生にとっては、教科書や作品集ですっかり視覚に刷り込み済みの巨匠。そのオリジナル作品が1ヶ月間、キャンパス内で何度でも鑑賞できるとあっては…。「学生たちに向けて、僕の彫刻が何かを語り、与えられるのなら」と、貴重な作品の貸し出しを快諾くださった舟越桂さん。自ら山形に赴き設置作業をおこなったギャラリーには、日本を代表する彫刻家・舟越桂のこれまでの歩みにおいて、ターニングポイントとなった作品が並べられました。

身近な人々をモデルに、その存在や自己との距離感をたぐり寄せるように彫った『妻の肖像』(1979-80)など最初期の試行錯誤。『森へ行く日』(1984)や『冬の本』(1988)など、詩的なタイトルに物語性を感じる人気の高い80年代後半の作品。そして様々な寓意がちりばめられた『月蝕

の森で』(2007)をはじめとする神秘的な新展開など、ギャラリー空間には決して平坦ではない彫刻家・舟越桂による現在進行中のクリエイティブが凝縮しています。一度見たら忘れられない印象的な展覧会ポスター(\*2)を手がけたのは、アーティストの立花文穂さん。かねてより尊敬していたという舟越さんとのアトリエでの対話(\*3)は、制作途中の作品の頭部に黒々と活字が重なりうごめき、新作「耳を澄ます スフィンクス」の制作過程に寄り添い、その印象を見事に伝えるビジュアルとして完成しました。

ギャラリーで来館者を迎えるのは学生ボランティアたち。1点1点の作品について舟越さんからガイド養成レクチャーを受けた芸術家の卵たちからは、きっと熱のこもった自己流「舟越桂論」が聞けるはず。できれば何回も会場に足を運んでみてください(なにしろ入場は無料ですから)。360度から舟越さんが刻んだ楠のテクチャーを味わうもよし。滋味深いそのまなざしと対峙し、静かにそれぞれの内省に浸るもよし。同時代で最良の彫刻家による鑿の痕跡を、この秋、ぜひ様々な角度からあなたの記憶に刻み込んでください。

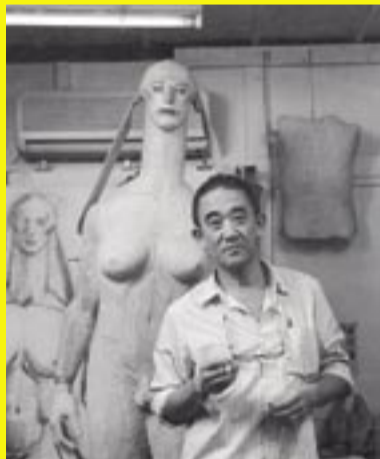


1: 栃木県立美術館の収蔵庫にて。初期の傑作「風をためて」と、梱包された「ルディーの走る理由」。その後にはイギリスの巨匠デヴィット・ナッシュの木彫群が。こちらも芸工大のスタジオ144で開催中の「栃木県立美術館所蔵彫刻コレクション展」に出展中。

2: 立花文穂さんデザインによる「舟越桂 | 自分の顔に語る 他人の顔に聴く」展ポスター。田宮印刷株式会社(山形市)に協力を依頼し、インクの盛りや印刷用紙の微妙なニュアンスにこだわったりと、職人的な試行錯誤を繰り返しながら、立花さんのタイポグラフィと舟越作品が見事に融合しました。2人のコラボレーションともいえるポスターです。

3: 舟越桂さんの世田谷のアトリエにて。ポスターの素材として立花さんが自ら撮影したアトリエの写真に見入る舟越桂さん(左)。

舟越桂 | 自分の顔に語る 他人の顔に聴く  
2007年10月12日(金) - 11月9日(金)  
東北芸術工科大学7Fギャラリー  
主催: 東北芸術工科大学  
企画: 東北芸術工科大学美術館大学構想室  
協力: 栃木県立美術館 / 田宮印刷株式会社 / 西村画廊 / 赤々舎 / Apple Store Sendai Ichibancho



舟越桂 Funakoshi Katsura

1951年岩手県に生まれる。彫刻家。父は同じく彫刻家の舟越保武。1977年に東京芸術大学院彫刻科を修了。同年、函館トラピスト修道院のマリア像を、1979年に逗子カトリック教会のための木彫の聖母子像を制作する。1982年に初めての個展を開催して以降、一貫して楠を素材とし、大理石の眼を嵌め込んだ木彫の半身像を制作・発表し続けている。これまでヴェネツィア・ビエンナーレ、サンパウロ・ビエンナーレ、ドクメンタIX、シドニー・ビエンナーレなど海外の主要な国際美術展に参加し、国内外で高い評価を得る日本を代表する芸術家である。1995年には第26回中原悌二郎賞優秀賞を、2003年には第33回中原悌二郎賞を受賞。公式サイト→www.show-p.com/funakoshi/ (ポートレート撮影: 内田芳考 / 写真提供: 西村画廊)

『月蝕の森で』(制作途中 / 部分)

楠に彩色、大理石 / 2007年

撮影: 内田芳考 / 写真提供: 西村画廊

http://gs.tuad.ac.jp/gg